

2025. 6. 15 (日) Iコリント15:45~49

15:45 こう書かれています。「最初の人アダムは生きるものとなった。」しかし、最後のアダムはいのちを与える御霊となりました。

15:46 最初にあったのは、御霊のものではなく血肉のものです。御霊のものは後に来るのです。

15:47 第一の人は地から出て、土で造られた人ですが、第二の人は天から出た方です。

15:48 土で造られた者たちはみな、この土で造られた人に似ており、天に属する者たちはみな、この天に属する方に似ています。

15:49 私たちは、土で造られた人のかたちを持っていたように、天に属する方のかたちも持つことになるのです。

<説教>

コリントの教会の中には「死者の復活はない」と主張する人々がいました(15:15)。それに対してパウロは、「キリストは死者の中からよみがえられた」と宣べ伝えられている(何と言ってもパウロ自身が最初にコリントでそのように宣べ伝えた)のに、どうしてそんなことを言うのか、と驚きをもって反論し、イエス・キリストの復活が事実なのだから死者—ここでは〈キリストにあって眠った者たち〉(18)—の復活も事実なのだを力を入れて教えました(13-34)。

その教えに対して「では、死者はどのようにしてよみがえるのか。どのようなからだで来るのか」となおも反論して来る〈愚かな人〉(36)がいるだろうとパウロは考え(おそらく実際にいたのでしょう)、それに答えるのでした。パウロはまず「死者はどのようなからだで来るのか」つまり「復活のからだとはどんなからだなのか」という問いに答えます。それが36~49節です。先主日には44節までから学びました。

そこでパウロが教えたことは、「復活のからだ」と「復活前、死ぬ前、つまりこの世に生きている現在のからだ」は、同じ自分のからだなのだけれども、その本質的、根本的性質が全く違うということでした。今のこの世にあるからだは「朽ちる、卑しい、弱いからだ」即ち〈血肉のからだ〉です。そんなからだは確かに一度死にます(いわば土に蒔かれます)。そしてその後「朽ちない、栄光ある、力あるからだ」即ち〈御霊のからだ〉に復活させられるのです(42-44)。〈血肉のからだ〉は、聖霊によって確かに新しく生まれ変わり、再生させられていながらも、なおも「生まれながらのたましいや心や理性や知性や意志、人間に強く影響され、引きずられていて、神に従うよりもそれらに従うよう、非常に強く常に罪に傾いているからだ」です。もちろん、いわば肉体的にも弱く、死ぬべきからだです。しかし一方、〈御霊のからだ〉は、「たましいも心も理性も知性も意志も、その人の全てが完全に聖霊の支配下にあつて、もはや罪を全く犯すことなく、聖霊と同じ思いとことばで生きる、即ち神をほめたたえ、神の栄光を現して永遠に生きるからだ」です。このように、キリストにあって〈血肉のからだ〉が死んだ者は〈御霊のからだ〉に復活させられるのです(44a)。

〈血肉のからだがあるのですから、御霊のからだもあるのです〉(44b)。先の「種蒔きのたとえ」から、〈血肉のからだ〉という〈種粒〉が蒔かれ(死んで)、〈御霊のからだ〉

生まれるということをパウロは説明しました。しかしそれはパウロ一人の思いつき過ぎないとなお反論する人がいるだろうことも想定したのでしょうか。パウロは続けて、聖書を引用し、アダムとキリストを比較して、〈血肉のからだ〉と〈御霊のからだ〉のことを論じて行きます(45-49)。

「最初の人アダムは生きるものとなった」(45)。これは創世記2章7節〈神である主は、その大地のちりで人を形造り、その鼻にいのちの息を吹き込まれた。それで人は生きるものとなった。〉のギリシア語訳聖書(七十人訳)からの引用です。〈生きるもの〉と日本語で訳された「もの」という語が、〈血肉〉(44,46)という語と同じなのです。アダムは〈血肉のからだ〉をもって生きる人として神によってこの世に創造され(生まれ)ました。パウロはこのアダムを〈最初の人〉と言い、キリストを〈最後のアダム〉そして〈いのちを与える御霊〉と言います。こうして「最初の人…血肉となった」アダムと「最後の…御霊となった」キリストを対比してパウロは示しました。〈最初の人アダム〉は〈血肉のからだ〉をもって造られ、そしてその〈血肉〉をもって、悪魔に従い、神に反逆し墮落しました。そうやって彼は〈必ず死ぬ〉(創世記2:17)者となり、そんな〈血肉のからだ〉の性質を私たち全ての人間に与えることになりました。しかしキリストはそれに対して〈最後のアダム〉として神によって立てられ、〈血肉のからだ〉を持つ人として、しかし罪を犯すことなく私たちの罪のために十字架で死なれ、神の力、ご自身の御霊なる聖霊の力で復活され、天に昇られ、〈いのちを与える御霊〉を私たち、イエスを信じる者に送ってくださっています。そしてやがて私たちを〈御霊のからだ〉に復活させてくださいます。

そういうわけで、〈最初にあったのは、御霊のもの(御霊のからだ)ではなく血肉のもの(血肉のからだ)です。御霊のもの(御霊のからだ)は後に来るのです〉(46)。私たちが〈御霊のからだ〉に復活させられるためには、その前にまず〈最初の人アダム〉の子孫としてアダムと同じように〈血肉のからだ〉をもって生まれる必要がありました。事実私たちはそのように生まれ、アダムと同じように〈血肉のからだ〉で神に反逆し、罪を犯し、〈必ず死ぬ〉者となりました。ですから、その後で〈最後のアダム〉キリストの〈いのちを与える御霊〉の力によって「再」生させられ、同じくキリストの御霊の力によって最後に〈御霊のからだ〉に復活させられるのです。

〈第一の(最初の)人〉アダムは〈地から出て、土で造られた人〉ですが〈第二の人〉キリストは〈天から出た方です〉(47)。このように、アダム(そして私たち人間)とキリストの違いはまさに「天と地」の違いです。キリストは永遠に真の神、御子なる神です。既に見たように、私たちと同じ肉体をとって、真の人としてこの地上を生きてくださいましたが、その間もずっと真の神、〈天に属する方〉(48)であられました。しかし私たちはアダムと同じく、本来〈地から出て、土で造られた人〉(47)、〈土で造られた者たち〉(48)であり、〈天に属する〉者ではありません。それで、生まれながらの〈血肉のからだ〉でその思いとことばと行いで神に反逆し、罪を犯し、神の永遠の刑罰のうちに死に滅ぼされるべき者です。しかし、そんな者たち、「この世に、この地に属する」私たちがイエス・キリストを信じ、神に立ち返り、罪を悔い改め、キリストに属する者となるなら、キリストと同じ〈天に属する者たち〉(48)としていただけるのです。そうやって私たちは神の刑罰、永遠の滅び免れ、神の御国(即ち天)に属する者として、永遠に死ぬことなく、キリストとともにあり、神をほめたたえ、神の栄光を現して生きる者といただけるのです。

〈私たちは、土で造られた人のかたちを持っていたように、天に属する方のかたちも持つことになるのです〉(49)。〈天に属する方のかたちも持つことになる〉(49)とは即ち〈御霊に属するからだによみがえらされる〉(44)ということです。〈血肉のからだ〉をもって今この地上にあるときに、キリストを信じ、キリストに属する者とさせていただいている者、私たちを、キリストがその再臨のときに〈私たちの卑しいからだを、ご自分の栄光に輝くからだと同じ姿に変えてくださる(ピリピ 3:21)〉ということです。〈キリストが現れたときに、キリストに似た者になる〉(Iヨハネ 3:2)ということです。要するに救い完成ですが、そのキリストの救いの約束は事実、今、既に私たちに語られ、私たちのうちに始まり、行われています。「今始まったことが、かの時には完成される」(カルヴァン)のです。私たちがこの神の神の約束、イエス・キリストを信じ、〈御霊のからだによみがえらされる〉信仰と希望をもってこの地上の生涯を歩んで行きたいと心から願い祈ります。